

# 西都市教育研究センター

研究主題	.....	10 - 1
主題設定の理由		
研究目標		
研究全体構想		
研究内容	.....	10 - 2
1 さいと学研究班		
昨年度までの取組		
本年度の取組	.....	10 - 3
2 英語研究班	.....	10 - 6
昨年度までの取組		
本年度の取組	.....	10 - 7
3 社会科副読本研究班	.....	10 - 9
現行副読本の課題		
新しい副読本作成の必要性		
改訂の例		
成果と課題	.....	10 - 10
1 成果		
2 課題		
研究同人		

## 研究主題

西都市における小中高一貫教育の充実を目指して

### 主題設定の理由

西都市は、平成19年度より内閣府の構造改革特区の認定を受け、また、平成21年度より、市内全ての小中学校が文部科学省より教育課程特例校の指定を受けている。本市では、恵まれた自然、先人の精神、豊かな人情などの教育資源を生かした特色ある教育課程を編成し、地域に自信と誇りをもち地域に貢献する人材の育成と学力の向上を目指して一貫教育に取り組んでいる。

研究センターとしても小中高一貫教育を念頭に、平成21年度は「国語研究班」「英語活動・英会話科研究班」「さいと学研究班」に分かれて研究を行った。「国語研究班」においては、小中一貫した古典暗唱指導法について事例を示すことができた。「英語活動・英会話科研究班」においては、小学校1年生からの単元計画を作成し、基本的な授業例を示すことができた。また、「さいと学研究班」においては、手引書を完成させ、各学校の先生方が授業イメージをもてるようにしてきた。

平成22年2月5日には、西都市文化ホールにおいて、教育研究センターの成果を市内の教職員をはじめ保護者や地域の方にも発表することができた。昨年度の成果と課題については、下記の通りである。

### 成果として

小中一貫教育としての形を整えることができた。

研究センターの取り組みを広く知らせることができた。

「さいと学」「英語活動・英会話科」の指導法について一つの形を示すことができた。

### 課題として

初めて赴任した先生は、「さいと学」の指導に戸惑いを感じる事が多くある。

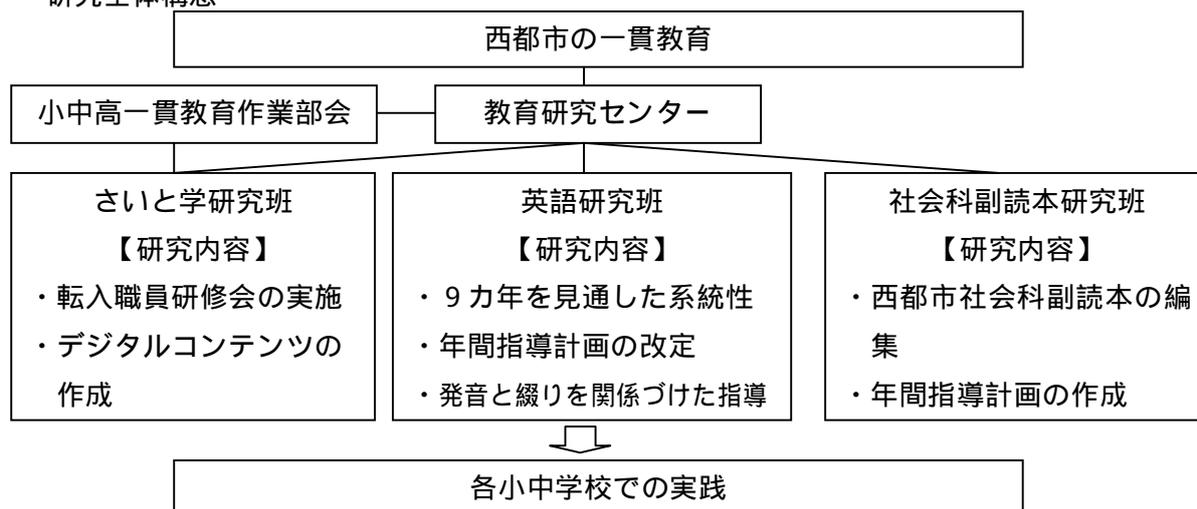
中学校英語科へのスムーズな接続としての小学校「英会話科」の指導はどうあればよいか。

そこで、本年度は、昨年度の成果や課題を踏まえて「西都教育ブランドの確立」のために「さいと学研究班」「英語研究班」「社会科副読本研究班」に分かれて研究し、西都市内の小中学校の先生方が指導しやすい環境を整えるために本主題を設定した。

### 研究目標

小中高一貫教育を進めるための「さいと学」「英語活動・英会話科」「社会科副読本」の基礎的な条件整備を行い、各学校の教育活動がスムーズにできることをねらいとする。

### 研究全体構想



## 研究内容

### 1 さいと学研究班

#### (1) 昨年度までの取組

##### ア 作業部会との連携（平成20年度・平成21年度）

西都市では平成20年度よりさいと学作業部会を開設し、本研究センターは作業部会と連携し、研究と実践を進めてきた。各年度の進捗状況は【表1】の通りである。

【表1】各年度の進捗状況

年度	平成20年度	平成21年度
ねらい	児童・生徒用テキスト作成	教師用手引書作成
本研究センターの役割	作成計画の推進・レイアウトの原案作成・掲載内容の検討	
作業部会の役割	センターより提案された内容の検討・原稿執筆作業	

##### イ 児童・生徒用テキストの作成（平成20年度）

テキストは、小学校5・6年生用と中学生用の2種類を作成した。さいと学では、小学校5・6年生と中学生において、西都市全ての学校が共通して取り扱う学習内容配列になっているためである。

テキスト作成は、さいと学学習の流れに沿った単元構成で編集することとした。単元構成は「つかむ」「ふかめる」「まとめる」「ひろげる」という問題解決的な学習の流れとした。これは、「ふるさとを」「知る」「語る」「愛する」というさいと学学習の流れを、指導する先生方に分かりやすい学習の流れとして【表2】のように関連付けたからである。

【表2】さいと学 学習の流れ

つかむ	ふかめる	まとめる	ひろげる
教師が知識を触媒として与え、知的好奇心を刺激する 「知る」段階	児童・生徒が体験を通して知識を獲得する 「知る」段階	言語活動の充実を図る 「語る」段階	自分の在り方や生き方を考えるキャリア教育としての 「愛する」段階

##### ウ 教師用手引書の作成（平成21年度）

教師用手引書も、児童・生徒用テキストに合わせ小学校5・6年生用と中学生用の2種類を作成した。手引書作成は、「さいと学の全体像を知ってもらう」「テキストを活用してもらう」「具体的な指導展開を知ってもらう」ことをねらい編集した。全体像を知ってもらうために、さいと学のねらいと、創設から現在までの経緯を共通理解できるページを設定した。

また、テキストの有効活用のため、縮小したテキストに詳細な解説や指導のポイントを吹き出しの形で挿入した。そして、指導展開例と指導事例も掲載した。

【図1】がテキスト、【図2】が教師用手引書の一部である。



【図1】テキスト



【図2】手引書

## エ 授業イメージの共有化（平成21年度）

さいと学の授業イメージを西都市の先生方に共有してもらうため、平成21年11月11日、銀鏡中学校で中学2年生と小学5年生のさいと学授業研究会を実施した。授業は「ふかめる」段階の授業で体験を通して知る活動を行った。また、平成22年1月25日には三財小学校で小学校6年生の授業研究会を行った。授業は「まとめる」段階で一人一人が西都への思いを語る活動を行った。

## オ アンケート調査の実施（平成20年度・平成21年度）

平成20年度に実施したアンケート調査と同じ内容のものを平成21年度も実施し、追跡調査を行った。その結果、西都市外からの転入職員が大きな不安を抱えていることが分析できた。不安要因の詳しい内容をみると「教師自身が西都市のことをよく知らないのに、どうやってさいと学を教えていけばいいのか」「授業ですぐに活用できる資料や教材が少ない」「校内でのサポート体制もまだ十分でない」ということが挙げられていた。

この課題に対応し解決していくことが、さいと学指導の充実につながると考え、平成22年度は転入職員に対する研修会を実施することと、授業ですぐに活用できるデジタルコンテンツの作成を行うことにした。

## (2) 本年度の取組

### ア 転入職員研修会の実施

転入職員のさいと学指導に対する不安を取り除くため、4月7日の転入職員着任式において、研修会を実施した。さいと学のねらいと授業の流れを知ってもらうため、研修方法は模擬授業の形にし、さいと学の授業展開と同じ「つかむ」「ふかめる」「まとめる」「ひろげる」の順で研修を進めた。

模擬授業形式のつかむ段階では、さいと学とは何かを知ってもらうため「さいと学とは一体何でしょう。」という発問からスタートした。そして、さいと学とは「子どもたちが西都市を になってもらうための学習です。」の の部分にどんな言葉がはいるか自由に発言してもらう活動へとつなげた。それ以降の流れは【表3】の通りである。

【表3】模擬授業の流れ

段階	内容・素材	意 図
つかむ 【知る】	さいと学とは何？ 西都市を大好きになってもらうための学習	さいと学について、初めてふれる転入職員に分かりやすい言葉で表現し、理解してもらう。
ふかめる 【知る】	奈良東大寺の梁（松の木） えびの市の白鳥神社から運ばれた木 広島厳島神社の大鳥居（楠の木） 西都市の住吉神社の木 紹介	さいと学学習の流れである「知る」「語る」「愛する」について説明する。また、意外な事実や新しい発見を提示することは、子どもたちの知的好奇心を刺激する仕掛けになることを体験してもらう。
まとめる 【語る】	さいと学テキストの提示 さいと学教師用手引書の提示 西都を語る児童の映像	転入職員の不安を取り除くため、授業に必要なテキスト・手引書があることを知らせる。また、西都を語る児童の映像を見せることで、児童・生徒が「語る」イメージを共有する。
ひろげる 【愛する】	昨年度、研究員が作成した小中高連携イメージデザイン・イメージ映像・メッセージソングの紹介	西都への思いを形にしたものを提示することで、西都を愛するという姿を理解してもらう。

## イ デジタルコンテンツの作成

デジタルコンテンツも、さいと学作業部会と連携し作成に取り組んだ。今年度作成の目的は、二つある。授業ですぐに活用できる教材をデジタルコンテンツとして提供できるようにすること。もう一つは、さいと学の広報活動である。

デジタルコンテンツはホームページ（以下 HP）形式にし、西都市教育委員会の HP とリンクするようにした。【図3】が、さいと学 HP のトップページである。

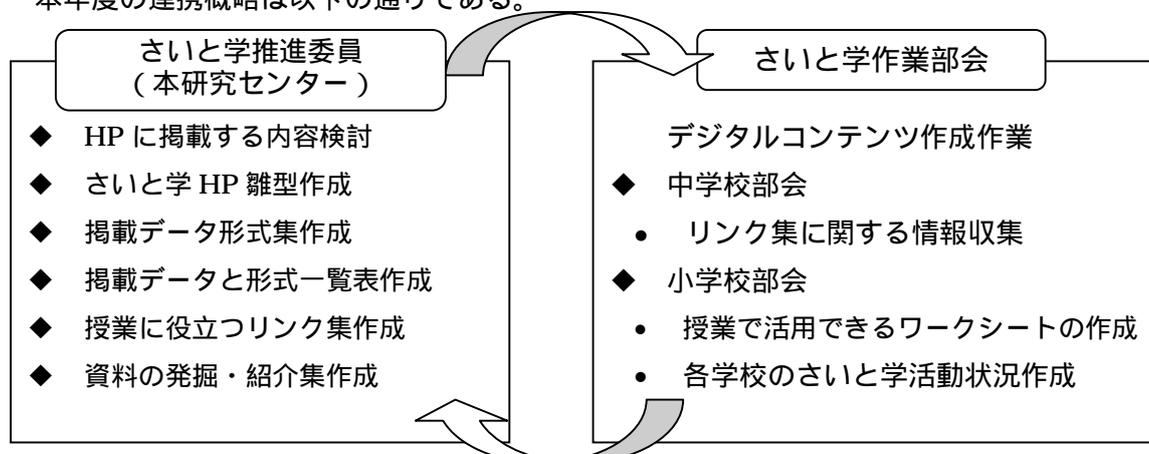


【図3】トップページ

### (ア) 作業部会との連携

児童・生徒用テキスト、教師用手引書作成と同様、デジタルコンテンツ作成も作業部会との連携を図った。本研究センター「さいと学研究班」の研究員は、平成20年度より作業部会にも所属し、作業部会の推進委員を兼ねることで作業の効率化を図る工夫をしてきた。

本年度の連携概略は以下の通りである。



### (イ) 掲載データ形式集作成

データ形式の共通理解を図り、次年度以降の HP 掲載データ更新も考慮し、データ形式集を作成した。このデータ形式集によりデータを収集する規準をもつことができた。このデータ形式集もさいと学 HP に掲載する。

データ形式集は、「形式及び拡張子」「デジタルデータ化する際に必要な判断基準」「データ形式の強み」「データ作成上の課題や留意点」という四つの視点で作成した。

以下に示すのがデータ形式集の一部である。

形式名及び拡張子の例

<p>ムービー .mpg .mov</p>	<p>★「効果的な発表とそうでない発表」のように、実際見て比較した方が理解が深まるもの (例) 面接の方法や電話のかけ方、職場体験学習ナーなど</p> <p>★「何かを作る」「準備する」「作業する」など、実際にやってみるとの方が理解しやすいもの</p>
-----------------------	--

デジタルデータ化を検討する際に必要な、判断基準や具体例

本形式でデータを作成した場合の強み

<ul style="list-style-type: none"> <li>● デジタルカメラのムービー機能などを活用して、気軽に撮影ができる。</li> <li>● PC上で編集ソフトを活用して、テロップを入れたりアフレコしたりすることもできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手ぶれ防止のために、三脚などを使用する必要がある。</li> <li>● PC上での編集には、専用のソフトが必要となる。</li> </ul>
--	--

データ作成上の課題や留意点

(ウ) 掲載データと形式一覧表作成

デジタルコンテンツを授業でより効果的に活用できるようにするには、指導者がデジタルコンテンツの項目を把握し、必要に応じて瞬時にアクセスできることが大切であると考えた。そこで、単元名・学習内容・掲載データ・指導書ページ・データ形式を整理した一覧表を作成した。

以下に示すのがデジタルコンテンツ掲載データと形式一覧表の一部である。

学年	単元名	学習内容	掲載するデータ	指導書ページ	データの形式							
					動画	読み物	ワークシート	音声資料	写真	音声	プレゼン	その他
西 部 の 歴 史		伊東マンショについて	伊東マンショの自画像	15,19					写真			
			巻物となる映像(UIMX制作)	19								その他
			記録用紙	15			ワークシート					
			活用紙へのまとめ方	16				音声資料	写真			
			巻物のしかた(個人・少人数)		動画			音声資料	写真			
			地域の地図(現在・過去)	17,21,22				音声資料				
最狭のようま(現在・過去)	11,21						写真					

(エ) 授業に役立つリンク集作成

調べ学習において児童・生徒が主体的にインターネットを活用し情報を検索したり、指導者が授業で生かせる情報をインターネットで収集したりするために、授業に役立つリンク集を作成した。リンク集は、「授業に効果的な Web ページのピックアップ」「使用者の対象」「Web ページの概略とおすすめ度掲載」という三つの視点で作成した。以下に示すのがリンク集の一部である。

さいと学 (中学生用) 授業に役立つリンク集

**生徒向け** 文章が平易で、生徒にとって分かりやすいもの  
**教師向け** 専門的な内容が多く、授業づくりのために役立つと思われる  
**参考資料** スキル学習や調べ方の方法など、生徒や教師の参考におすすめ度：★から★★★★★までの5段階で、ページの

膨大な Web ページの中から、授業に有効なものだけを掲載した。

<伊東マンショ>

**生徒向け** <http://www.h8.dion.ne.jp/~be.happy/travel-itouman>  
 2005年11月に発見された「伊東マンショの巻物」  
 当時、世紀の発見として次ニュースと

どのような内容がHPに掲載されているかの概略、使用者の対象(教師・児童生徒)、おすすめ度などを示した。

**教師向け** <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B0%8A%E6%9D%B1>  
 フリー百科事典「Wikipedia(ウィキペディア)」による、伊東マンショの概

(オ) 資料の発掘・紹介集作成

各学校に配布されている書籍やDVDの中に、さいと学において効果的な資料となるものがあった。そこで、配布物を再点検し資料となるものを発掘し紹介すれば、授業に役立てることができると考え、デジタル紹介集を作成した。紹介集は「表紙画像」「内容の概略」「おすすめ度」という三つの視点で作成した。

以下に示すのがデジタル紹介集の一部である。

授業づくりに役立つ書籍・ビデオなど

「本やビデオのタイトル」

著作者・編集者  
出版社

**資料の特色** コメント  
**内容レベル** 基本的な内容中心か、専門的な内容か  
**文字・画像** 文章中心か、図や写真など中心か  
**ページ数**  
**コメント**

おすすめ度：★から★★★★★までの5段階で

書籍やDVDの表紙画像、内容についての概略、おすすめ度などを示した。

## 2 英語研究班

西都市では平成20年度から小学1年生～4年生までが英語活動、小学5・6年生が英会話の教科を設置し、学習指導にあたってきた。市内の学校において共通実践が図れるよう、『英語活動実践事例集』を作成し、これをもとに指導を進めてきた。指導を進める中で出てきた課題を取り上げ改善するための手立てを探った。

### (1) 昨年度までの取組

英語活動・英会話科の学習活動は、『英語活動実践事例集』をもとに各学校で実施されてきたが、学校によって取組み方がまちまちな部分も見られた。そこで、市内で統一した指導方法が必要ではないかと考え、次の3つの内容について研究を行った。

#### ア T1・T2の役割の明確化

西都市においては小学1年生～6年生のすべての英語活動と英会話科の授業を、学級担任と英語の専門性をもった教員によるTTで行っている。その理由は、児童に多くの英語を聞かせたいという願いから、T2が英語の専門性を生かした直接的な指導にあたるようにしているためである。そこで、このTTで実施するよさを生かした授業の改善を張るためにT1・T2の役割を以下のように設定した。

	T1 (学級担任)	T2 (AET)
授業準備	英語活動展開事例集をもとに授業を提案	学級担任の提案を受け、専門性を生かして肉付け
授業中	進行役・学業指導・個別指導・学習モデル 【留意点】 ・児童の反応を見て必要に応じて和訳する。	音声・発音指導 【留意点】 ・児童により多くの英語のシャワーを浴びせる。

#### イ 単元計画の基本形

児童が楽しみながら学習を進めていくためには、発達段階に応じた指導を行うことと学び方を身に付けさせていくことが大切である。そこで、以下のように1単元の流れを基本形として、指導にあたるようにした。

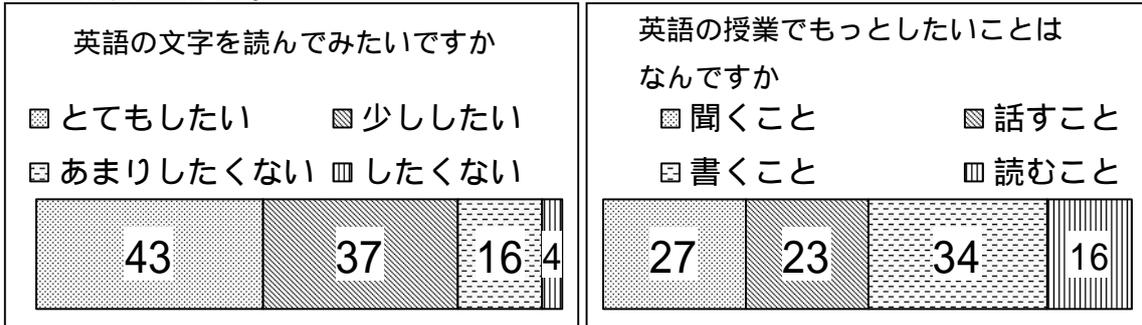


【図4】単元計画の基本形

#### ウ 児童の実態調査

平成21年度の取組の成果を検証するために、児童英検(BRONZE)を6年生児童が受験し、同時に英会話科に関するアンケートを実施した。その結果、次のような結果

が見えてきた。

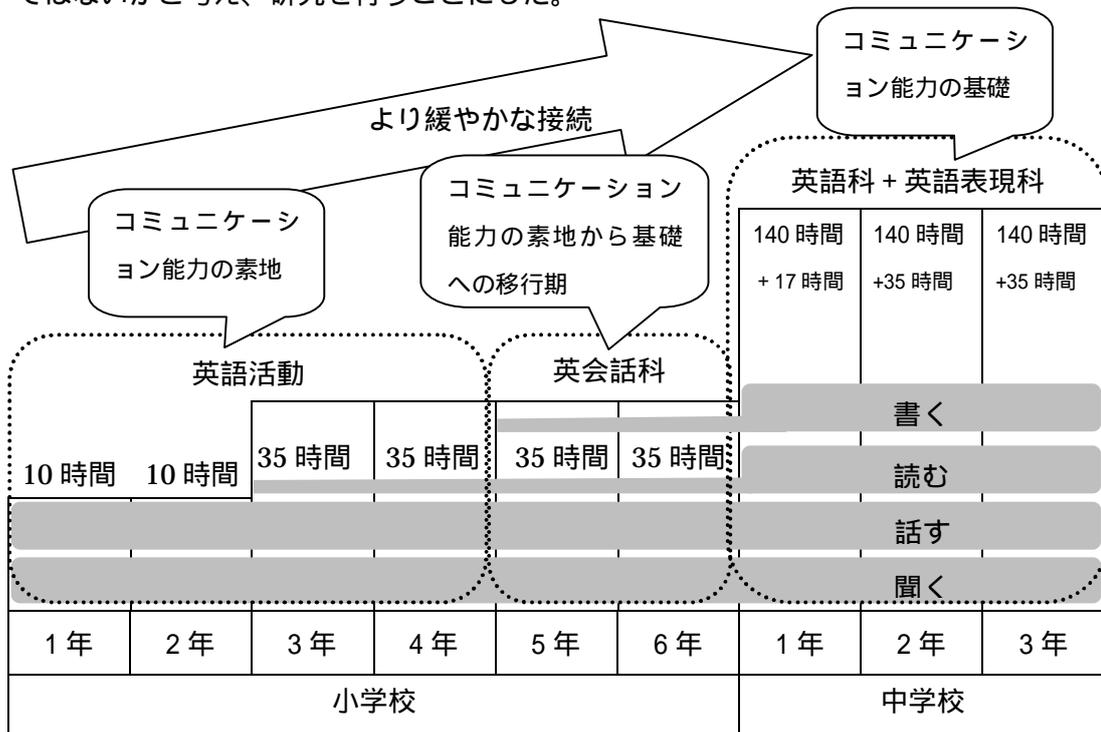


この結果から見ると、英語の文字を読むことに対して肯定的にとらえている児童が約80%、英語の授業で取り組みたいことに、文字を書くこと・読むことを選択した児童が約50%いることがわかった。本市では、これまでの「聞くこと・話すこと」の内容のみで英語活動・英会話科を構成してきたが、児童の中には文字に対する興味が芽生えていることが窺える。また、中学1年生では、小学校の英会話科と中学校の英語科とのギャップに戸惑う生徒も見られるという報告も上がっている。

(2) 本年度の取組

ア 全体計画の見直し

実態調査や中学1年生の実態を受けて、「英語が好きだ」という児童生徒を育てるためにも小中学校がよりスムーズに接続できるようにすることが大切だと考えた。そのために「読む・書く」活動を少しずつ取り入れていくことでそのことが可能になるのではないかと考え、研究を行うことにした。



【図5】全体計画

基本的に、「聞く・話す」を中心とした英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせる英語活動・英会話科という基本方針に変更はない。小学校の授業を通して高まった「英語を学びたい」という子ども達の思いを中学校での学習につなぎ、「読む」「書く」活動をより緩やかに接続できるようにするために次の点に配慮していきたい。

(ア) 読む活動について

3年生から発音と綴りとを関連づけた指導を取り入れ、文字を自然に読めるように工夫する。

文字を読むことに関する評価は行わず、実態に応じて楽しい雰囲気で行うよう配慮する。

(イ) 書く活動について

3・4年生の国語科との連携を図る。ローマ字指導をへボン式に一元化することで、中学校での英語科とのギャップをなくす。

5・6年生の英会話科では、中学校での「書く」ことへの抵抗を減らすために、アルファベットやローマ字読みにごく近い表記で表せる簡単な単語を書く等の活動を取り入れる。但し、単語テストや評価等は一切行わない。また、書く活動に充てる時間は5分以内の短い時間とし、あくまでも「聞く・話す」を中心とした英語によるコミュニケーションを楽しむ活動を大切にする。

イ 一単位時間の学習の流れ

「読む・書く」活動を取り入れるために、一単位時間の基本的な流れにもわずかに変更を加えた。基本的に全体の流れが途切れないようにすることが重要であるので、ウォーミングアップの中で5分程度を想定している。書く活動で使う単語は、1時間で1～2語程度とし繰り返し学ぶ機会があるほうが適切ではないかと考える。

活動内容	指導上の留意点
Greeting あいさつ	学習状況にあわせて、少しずつ質問項目を増やしていく。
Warm up ウォーミングアップ	雰囲気作り。 体を動かしながら、前時の学習を思い出したり、これまでの学習内容に繰り返し触れさせたりする。 <b>発音と綴りに関することや文字を書く練習も取り入れる。</b>
Introduction 目標表現の導入	絵カードや実演で、学習する言語材料に触れさせる。
Practice 練習	繰り返しでより確実に身に付けさせる。 全体 個別 個別の支援を行える時間を確保し、一人一人の実態に
Games & Activities 目標表現に親しむ活動	楽しく、自らたくさん話す活動を仕組む。 みんなが話せる言語材料だけを使う
Communication Activities コミュニケーション活動	単元の初めは必ずしも必要ない。学習内容がしっかり身に付いたら自己表現する時間にあてる。

### 3 社会科副読本研究班

#### 現行副読本の課題

現行の社会科副読本は、平成 12 年度に作成されたものである。その後、改訂が何度か行われているが、資料や写真はほとんどそのままとなっていた。このことから

掲載されている表やグラフが古い。

商店や公共施設等が現状と異なる。という課題が出てきている。

そのため、指導をする際、新たに最近の資料を集めたり、問い合わせを行ったりする手間がかかり、使いにくいという教師の声がある。

#### 新しい副読本作成の必要性

新学習指導要領では、3・4年生の技能・能力に関する目標として、これまでの「調べたこと」に「考えたこと」を加え、「考えたことを表現する」ことを一層重視している。そのため、現行の副読本を見直し、使いやすい副読本を作成していく必要性が出てきた。また、本市で行っている「さいと学」との関連についても、考慮する必要性が出てきていた。

#### 改訂の例

そこで、本年度は「はたらく人とわたしたちの暮らし」、「くらしをまもる」、「住みよいくらしをつくる」の3単元について改訂を行った。【図6】のように写真の差し替えを行ったり、表やグラフの作り替えを行ったりした。また、23年度から使用する教科書を参考にして、【図7】のような、考えたことを表現するための書き込み欄を取り入れた。その例を以下に示す。

【現行】



【改訂後】



【図6 西都警察署】



【図7 書き込み欄を取り入れた例】

## 成果と課題

### 1 成果

#### 「さいと学研究班」

- ・ 作業部会との連携で、デジタルコンテンツ作成活動がスムーズに行えた。
- ・ コンテンツの内容を、学習に役立つ資料集とさいと学の広報活動に分け作成できた。
- ・ デジタル資料集の一覧表を作成し、次年度以降にも発展性をもたせることができた。

#### 「英語研究班」

- ・ これまでの実践と児童・生徒の実態をふまえ、より緩やかな接続ができるようにカリキュラムを見直すことができた。

#### 「社会科副読本研究班」

- ・ 資料を新しくしたことで、西都市の現状を学習できる副読本になってきている。
- ・ 来年度の副読本全面改訂への形を表すことができた。
- ・ 新学習指導要領に則して改訂を行い、「考えることを表現する」ための書き込みをすることができる形式にした。
- ・ 「さいと学」のデジタルコンテンツを資料として掲載できる可能性を見いだすことができた。

### 2 課題

#### 「さいと学研究班」

- ・ 次年度以降のさいと学HP（デジタルコンテンツ）の更新方法を作業部会との連携で行うか、さいと学事務局を設置して行うか検討する必要がある。

#### 「英語研究班」

- ・ 新しいカリキュラムの共通理解を進め、実態に応じてよりよいものに改善を加えていく必要がある。

#### 「社会科副読本研究班」

- ・ 全面改訂への手順を明確にする必要がある。
- ・ 年間指導計画の作成が暫定的なものとなった。

### 研究同人

所 長	綾 寛 光（教育長）
主任研究員	兒玉 秀人（三財小学校）
研 究 員	
さいと学研究班	
松浦 寿人（三財小学校）	水俣 輝男（妻北小学校） 小玉 宏（穂北中学校）
英語研究班	
木下 浩利（妻南小学校）	水田 幸児（妻北小学校） 和田なつみ（妻中学校）
社会科副読本研究班	
瀬戸山なつ代（都於郡小学校）	新見 典子（妻南小学校）
主 事	牧野 宏紀（学校教育課指導係長）
事 務	黒木真由子（学校教育課）